

平成23年度第3回推進会議における主な意見		対応	
1	<p>児童生徒の「徳」の状況に関して (重点プラン冊子 P5【参考資料】)</p>	<p>グラフで落ち込みが見られる部分を伸ばしていくためには、特別活動や総合的な学習の時間を通して、地域の人々や自然と関わる活動を充実させる必要があると考える。その際、子どもたちが主体的に動き、自ら学びを広げていくことを重視した指導が重要である。授業時数の増加によって、教師が子どもたちにゆとりを持って接することや、校外で行う課外授業の時間の確保が難しくなることが不安要素である。</p>	<p>新しい学習指導要領においても、教科や領域の中で、体験的・問題解決的な学習や、自主的・自発的な学習を行うことの重要性が求められている。 こういった学習を行うためには、年間計画上に適切に位置づけて、見通しをもった指導を行うことや外部人材を効果的に活用することなどが大切である。 教育課程に関する様々な研修の機会に、教員への啓発をしていく。</p>
2		<p>データを見ると、私たち大人の責任を感じる。規範意識やあいさつ行動などは、子どもたちだけでなく、県民としても弱い部分であると感じる。この実態を広く県全体に周知して、県民運動のような形で取組を進めることはできないだろうか。</p>	<p>県では、小中学校PTAと連携して県下7地区で子どもたちをとりまく状況の課題解決に向けて「PTA・教育行政研修会」を開催しており、ここ数年生活リズムの向上について協議を行っている。今後、このような機会等も活用してあいさつ運動の実施等を検討していく。</p>
3		<p>教育基本法の目標に基づき、グラフに追加する項目を検討してみてもどうか。</p>	<p>現在、児童生徒の自尊感情や規範意識、社会性の実態を測る目的で、高知県独自の指標を作成中である。教育基本法で示されている部分についても、項目を追加することを検討している。</p>
4		<p>配付資料では、秋田、広島県の2県のデータが入っているが、調査結果で高知県を下回る状況にある都道府県のデータなども参考に、様々な角度から分析を進めてみるかどうか。</p>	<p>資料にある調査項目以外も含めて、これまでの質問紙調査の結果について、他県の状況、本県の状況を分析中である。質問の分野によって地域差が見られるものもあり、今後分析を進めることで、新たな知見を得られることが期待できる。</p>
5	<p>キャリア教育の推進</p>	<p>授業時数の制限等もあるが、高知県らしいキャリア教育を各学校で進めていただきたい。また、キャリア教育について、教育関係以外の方も交えた形で意見交換できる場を設けてもらいたい。</p>	<p>昨年度、県教育委員会で作成したキャリア教育の指針（「高知のキャリア教育」）に基づき、高知の子どもたちの夢や志をかなえる基となる力を育てることを目指して、就学前から高等学校までの縦の系統性や、地域との横のつながりを意識したキャリア教育を推進していく。</p> <p>小・中学校では、全体計画を作成し、各学校の特色を生かした取組を進めていく。県教育委員会では、各学校のキャリア教育担当者に対して研修会や、中学生用キャリア教育副読本の作成・配付を行い、学校の取組を支援していく。</p> <p>さらに、教育の日関連事業として、11月4日にキャリア教育フォーラムを開催し、教員や保護者だけでなく、企業やNPOの方々などが一堂に会し、県民ぐるみで、子どもたちのキャリア教育について共に考える機会をもつこととしている。</p> <p>また、高等学校では、キャリア教育を推進するため、「生徒パワーアップ」、「学校パワーアップ」事業を行っている。特に、そのなかには</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会人基礎力の育成事業 ○企業を知ろう事業 ○仕事を知ろう事業 ○キャリア教育研究事業 <p>など、外部との連携を意識した取組を実施するようにしている。またこれ以外には、基礎学力の向上を目指した取組も実施している。</p>

平成23年度第3回推進会議における主な意見		対応
6	<p>施策、取組の検証</p> <p>数値目標だけでなく、改善の要因や成果の裏にある課題の分析など、より踏み込んだ検証が必要である。</p>	<p>客観的なデータを用いた検証方法は定着してきたが、要因分析やアウトカムの測定が十分でないところもあることから今後の検証の在り方についてさらに研究していく必要がある。</p>
7	<p>施策、取組の検証</p> <p>子どもたちや教員の生の声が知りたい。現場の声をひろう仕組みはあるのか。 子どもたちも県の学力や体力等の課題については知っていると思う。そのことについてどう考え、今後どうしていきたいのか。</p>	<p>指導主事等が、学校訪問の機会にできるだけ生の声を拾う努力はしているが十分でない。現場の実態をつかむ方策や仕組みづくりを考えていく。</p>
8	<p>学校の管理職の資質・指導力の向上</p> <p>プランの推進に向けてのカギは、学校の管理職にあると思う。教育課程の管理をしっかりできる校長になってもらいたい。そのためには、研修等で管理職の資質・指導力の向上を図ることが重要である。 明確なゴールイメージが描けていない管理職が多い。種々の取組が何につながっているかという整理も弱い。</p>	<p>3年間の教頭研修を中心とする体系化した管理職育成プログラムに基づき管理職研修を実施しており、その修了者が校長に昇任することで学校経営力は徐々に向上している。しかし、現状では全校長に対する修了者の占める割合が23%と低いため、「新任用校長研修」、「トップリーダー課題研修」、「小中学校教頭マネジメント研修」を実施し、さらなる経営力の質の向上を図っている。</p>
9	<p>「自尊感情」の表現</p> <p>「自尊感情」という用語には抵抗感がある。教育関係者以外の方から誤解を招く恐れもある。「自己肯定感」という表現でも良いのでは。</p>	<p>自尊感情という言葉に抵抗感を持つ方もおられるが、県教育委員会では、自分のかけがえなさという価値を認識し、長所と短所を含めて受容したうえで、自分を好きだとする感情として、「自分をかけがえのない存在として認め、自分が好きだと思う気持ち」として定義している。</p>
10	<p>学級経営力の向上</p> <p>今の若年教員は、子どもたちを集団として育てていく部分で、指導力に弱さを感じる。教科の指導力だけでなく、学級経営力の向上が重要な課題であると考えている。</p>	<p>各学校における学級経営の充実を図り、学力向上や生徒指導上の諸問題の改善につなげていくため、校種や学年にかかわらず県内すべての公立学校の教員が学級経営の重要性を認識し、学級経営の視点を取り入れた授業を行うなど、各学校において組織的で一貫性のある実践が行われるよう、取り組むこととしている。</p>
11	<p>重点プランの施策体系</p> <p>プランの骨格は良いが、事業計画までおけると相当な取組の量であり、もう少し絞り込みができると良いのではと思う。教育関係者はもちろん、県民に向けたメッセージでもあるので、「これをやるのだ」ということを焦点化して示すことが重要である。</p>	<p>子どもたちの「知」「徳」「体」の調和的発達を目指すうえで、取組はどうしても幅広いものになる。焦点がぼやけないようプランの説明会などを通じて目標や3つの柱「高める」「耕す」「つなぐ」を印象づける説明を行うなど周知の工夫を行っている。</p>
12	<p>「心の教育」実践の場の確保</p> <p>道徳教育等で学んだことについて実践できる場を、学校の内外で確保する必要がある。そこが遊離しているのが本県の今の課題であると思う。</p>	<p>道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものであり、学校生活そのものが道徳教育の実践の場と捉えられる。 また、子どもたちの道徳性を育成するうえで、家庭や地域と連携することや、集団宿泊体験や職場体験、ボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を行うことが大切であり、そういったしくみや機会の充実を図っていく必要がある。</p>

平成23年度第3回推進会議における主な意見		対応
13	<p>教員のモチベーションの向上</p> <p>「多忙感」や「やらされ感」を感じる教員が多い中、いかにモチベーションを高めていくか、検討する必要がある。</p>	<p>各校における「多忙感」や「やらされ感」の原因となっているものは何かということ进行分析するとともに、その解決を図るため、管理職のリーダーシップのもと、学校としての組織力の強化が今以上に必要である。そのため、副校長や主幹教諭、指導教諭などの配置を継続し、その成果効果を検証していく。</p> <p>また、若年教員サポート、教員ゼミ（難関大学受験指導研究）、産業教育内地留学生、高知県担い手人材育成（教員研修）事業など、教員のスキルアップにつながる取組を行うことで、意欲ある教員の育成、発掘に努めるとともに、教員全体のモチベーションアップに結び付けていく。</p> <p>その他にも、特に功績が顕著なもの及び全体の奉仕者としての模範となる職員に対して土佐の教育実践表彰（管理職を除く職員を対象）、土佐の教育奨励表彰（土佐の教育実践表彰受賞者を対象）、土佐の教育功績表彰（管理職を対象）を授与し、その榮譽をたたえている。</p>
14	<p>学校評価における学校関係者評価の実施率</p> <p>学校関係者評価の実施率が全国を大きく下回っている。学校のPDCAによる改善のサイクルは定着しつつあるようだが、自分たちの取組をきちんと振り返り、改善につなげていくうえで、客観的な評価は重要である。自己評価で完結することなく、外部の目も入れて検証する形を定着させてもらいたい。</p>	<p>小中学校では、平成21年度の調査結果から、本県の学校関係者評価の実施状況に課題が見られた。そのため、研修会や学校訪問などを通じて啓発を行ってきた。実施率は向上してきているが、学校経営のPDCAサイクル上で息づいていくようにすることが肝要である。学校改善プランとも関連付けながら、学校への支援を継続していく。</p> <p>高等学校では、学校関係者評価は、全ての県立高等学校で実施している。また、学校評価制度のさらなる推進のため、各校の作成した学校経営構想図の進捗状況を把握する手段として学校評価を位置づけ、学校経営計画や全体計画・指導計画とも連動した学校評価制度の実施を目指す。</p>
15	<p>高知県の強みを生かし、伸ばす取組について</p> <p>本県の強みを生かす取組について、重点プランでは読書活動の推進が位置付けられているが、そこだけに絞られることのないよう、基本計画全体の視点に立って、幅広い取組を進めていく必要がある。</p>	<p>本県の教育振興を図るうえでも「強みを生かす」を充実させることは、重要であると考えるが、取組が進んでいない部分もある。</p>
16	<p>体力・運動能力の向上</p> <p>体力・運動能力のデータもレーダーチャートで示してみようか。子どもたちの体力・運動能力の課題は、昔から取り上げられているが改善が進まない状況にある。切り口を変えた課題の見せ方、分析の仕方が必要である。</p>	<p>学力調査に準じてレーダーチャート（実技に関する調査）を作成したが、関連性が見えにくいものになる。課題の見せ方については、平均値だけで見るとはならず、分布図で現状を分析したり、総合評価による取組状況の分析（AB-DE値）等、学校の取組が分析できる方法を検討していく。</p>